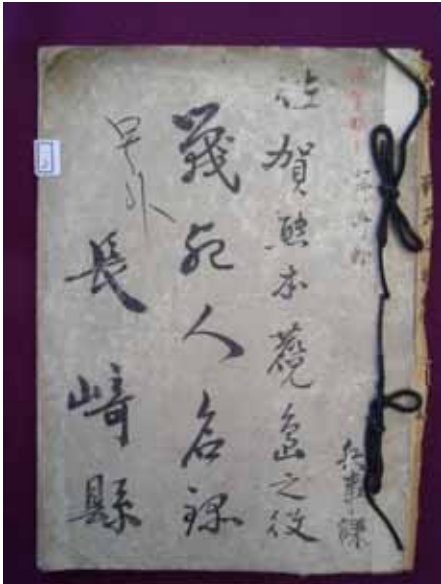


## 佐賀 熊本 鹿兒島之役 戦死人名録 (年代不明)



明治初期、四民平等政策をもとに士族階級の身分的特権を廃止します。また、政府が行う文明開化、殖産興業政策による西洋技術・文化の輸入、朝鮮出兵を巡る「征韓論」で政府が紛糾し1873年(明治6年)の政変で、西郷隆盛、江藤新平、副島種臣、板垣退助らが下野すると士族層に影響を与え、明治政府に反対する「不平士族」と呼ばれます。

今から133年前の明治7年2月に江藤新平・島義勇は佐賀士族に擁立され「佐賀の役」を起こしますが、これを発端に明治9年10月24日には熊本県で「神風連の乱」、呼応して同27日に福岡県で「秋月の乱」、同28日には山口県の「萩の乱」が相次ぎ、鎮圧されます。明治10年鹿児島で薩摩士族が西郷隆盛を擁立して、最大規模となる「西南戦争」を起こしますが、これも士族側の敗戦でおわります。以降、不平士族の反対運動は、国会開設や憲法制定を要求する「自由民権運動」に移行していきます。

本県の場合は江藤新平を中心とした調査研究、出版物は相当見受けられますが、政府軍関係の資料は少ないようです。

当該書類の「佐賀 熊本 鹿兒島之役 戦死人名録」は、表紙に長崎県兵事課第号外と記されており、右上部に朱書で佐賀県分と書かれており、政府軍として出兵した佐賀県出身の兵士の動向の一端を知ることができます。

